

岩西小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・総合的な学習の時間を「i 学習」と呼び、次の2つを目的として、ESDの視点で実践を行っている。目的①さまざまな活動や体験を通して、自分と地域・人・自然とのかかわりに関心を持ち、自ら考え、判断し、行動する力を育てる。②各教科で身につけた学び方やものの考え方をを使って、問題解決にすすんで取り組む態度を育て、自己形成に向けての見方・考え方を養う。
- ・「温かい町 岩西」「住みやすい町 岩西」「美しい町 岩西」の3つの領域を柱として、①地域に関わる活動、②福祉に関わる教育、③自分自身に関わる学習、④国際理解に関わる学習を行っている。

・活動の実際

① 地域に関わる活動（3年生）

3年生の i 学習では「岩西よいとこ大作戦！」として、自分たちの住んでいる岩西校区のすてきなところや人、もの、自然について調べ、岩西校区を好きになり、そこに生きる自分自身も大切にしていこうとする心を育ててきた。地域の方へのインタビューを繰り返すことで、地域の方がどのような気持ちで活動しているのかを知ることができた。地域の方々に支えられ、安全に生活できることを知り、自分たちにもできることを実践したいという気持ちをもった。そこで、「岩西よいとこ大作戦」を開始した。9つのグループに分かれて自分たちができることを行った。あいさつグループでは、キャンペーンを企画して、まずはあいさつで3年生を明るい学年にしようと取り組んだ。さらに自分たちだけでなく、学校をあいさつでいっぱい



② 地域や福祉に関わる活動（4年生）

4年生の i 学習では「共に生きる～自分たちにできること～」として、3年生の i 学習で深めた地域への愛着を基盤とし、特別支援学校との交流を中心とした福祉に関わる学びを展開した。

社会科の授業でのごみや水の学習をきっかけにし、地域の生活を支える設備や建物に目を向けた。その中で、隣接する特別支援学校の存在について知り、興味をもった。どんな学校なのか、障がいとは何なのかなどを調べる中で、実際に特別支援学校を見学したいと考えた。校舎内やそこで学習する子どもたちの様子を見学し、障がいがありながらも、自分たちと同じように学校生活を送る姿を見て、仲よくなりたいという思いをもった。そこで、特別支援学校の子と仲よくなるための「i プロジェクト」を実施することにした。自分のペアの子は、何が好きなのか、どんなことなら楽しめるのかを友達と話し合い、仲よくなるための遊びを決めた。交流の当日は支援学校の子に積極的に声をかけ、生き生きと活動した。

活動を通して、子どもたちは「みんなが笑顔で住み続けられるまち」であってほしいという願いをもった。

